

御嶽山の規制緩和に向けた取組について

木曾町
長野県木曾地域振興局

1 規制緩和に向けた基本方針（御嶽山防災力強化計画※ から抜粋）

- ・ハード・ソフト両面の安全対策を実施し、平成 26 年の噴火災害時よりも安全性を向上させる。
- ・必要な安全対策が整った範囲から規制を解除（緩和）する。
- ・火山活動に関する正確な情報発信・伝達を行う。

（※ 平成 30 年 3 月 木曾町・玉滝村・長野県において、規制緩和にあたって有識者の考えも徴して作成したもの）

2 規制緩和に対して行う安全対策

木曾町が今回の規制緩和について、ハード・ソフト対策を行った部分

○ ハード対策

区 分		区 分
避 難 施 設	御嶽頂上山荘	解体撤去 → 避難シェルター整備（約 90 人分）
	御嶽剣ヶ峰山荘	危険防止のための一部撤去 （当面、登山道ルートシェルター前に迂回）
	二ノ池山荘 （旧 二ノ池本館）	改築（アラミド補強）
	石室山荘	
	御嶽神社祈祷所	
避難路（登山道補修）		二ノ池～剣ヶ峰
情報伝達設備		二ノ池山荘に屋外スピーカーを設置



○ ソフト対策

項 目	内 容
登山指導所設置	<p>【設置箇所】二ノ池山荘、石室山荘、女人堂、行場山荘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山頂部の危険性の明示、火山活動情報の提供、安全装備の確認 ・方法は、掲示板表示、チラシ配置
パトロール隊の配置拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・安全装備の確認、山頂付近の滞留防止、頂上付近のパトロール指導強化
注意喚起標識の設置	<p>【設置箇所】剣ヶ峰、避難シェルター付近、二ノ池山荘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滞留防止、規制範囲の図示、避難施設や避難ルートの位置図
情報伝達手段確保	<ul style="list-style-type: none"> ・山頂付近 屋外スピーカー、パトロール隊員、緊急速報メール ・エリア全体 防災行政無線（山小屋）、緊急速報メール ・避難施設（山小屋）周辺 屋外スピーカー、緊急速報メール
異変検知時対処方針確立	<ul style="list-style-type: none"> ・気象庁から「火山の状況に関する解説情報（臨時）」が発表された場合は、立入規制の検討を行う
避難計画等整備	<ul style="list-style-type: none"> ・避難誘導マニュアル策定、避難訓練実施 ・避難促進施設指定 （御嶽神社、二ノ池山荘、石室山荘、女人堂、行場山荘、御岳ロープウェイ） ・避難確保計画を施設ごとに作成

御嶽山登山者のみなさまへ

- ・御嶽山は現在も活動を続けている**活火山**です。夜間、早朝の登山は控えてください。
- ・登山計画書の提出をしてください。
- ・火口から1 km 以内については、二ノ池から頂上への**登山道以外は立入禁止**です。
- ・頂上を目指す登山者の方には、ヘルメット・マスク・ゴーグルの準備をお願いしています。
- ・頂上エリアでは**滞留せず滞在時間は短めに**下山開始するようにお願いします。
- ・気象情報・火山情報等を注視してください。
- ・頂上エリア付近では携帯電話等の**電源は切らない**ようにしてください。非常時の緊急速報メール等が届きません。
- ・緊急時の避難路は登り道と同じ登山道です。登りに通行した登山道を安全確認しながら戻ってください。
- ・規制箇所、危険な場所へは、**絶対に立ち入らない**でください。
- ・登山には危険が伴います。登山道等の安全対策は完ぺきではありません。**自己責任**で安全に注意してください。

(参 考) 火山活動の現状 (気象庁情報)

- ・噴火予報 (噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)
 - ・噴煙活動や山頂直下付近の地震活動は緩やかな低下が続いており、火山活動の静穏化の傾向が続いています。
- 一方、2014年に噴火が発生した火口列の一部の噴気孔では、引き続き噴気が勢いよく噴出しています。状況によっては、火山灰等のごく小規模な噴出が突発的に発生する可能性があります。
- 噴気活動の活発な噴気孔から概ね500mの範囲では、突発的な火山灰等のごく小規模な噴出に注意が必要です

3 規制緩和までの経緯

- ・平成 29 年 8 月 21 日 御嶽山火山防災協議会（以下「協議会」という。）で火口から概ね 1 km の範囲は、必要な安全対策が整うまでの間、立入規制を継続
- ・ 同 日 気象庁は噴火警戒レベルが 2 から 1 へ引き下げ
- ・平成 30 年 3 月 御嶽山防災力強化計画の策定（長野県、木曾町、王滝村）
- ・平成 30 年 8 月 27～28 日 協議会の現地調査
- ・平成 30 年 9 月 5 日 協議会（幹事会）への報告、有識者、関係機関からの意見聴取
- ・ 9 月 21 日 協議会全構成機関への意見照会及びその対応
- ・平成 30 年 9 月 26 日 黒沢口登山道の一部（二ノ池～剣ヶ峰）の規制緩和

○ 御嶽山火山防災協議会における専門家の見解、コメント

【名古屋大学大学院環境学研究科 山岡耕春 教授】

「活火山であるので、絶対に安全にはなり得ないことを前提として、ハードおよびソフトの両面において噴火前よりは着実な安全策が施されたと認められる。

また現時点では、噴火が差し迫っている兆候は見られない。」

【東濃地震科学研究所 木股文昭 副主席主任研究員】

別添のとおり

4 地域での取組

○ 御嶽山火山マイスターの活動（御嶽山火山マイスターネットワークの概要）

- ・御嶽山噴火災害を踏まえ、火山防災の普及・啓発などを担う「御嶽山火山マイスター」の認定を制度化し、平成 30 年 4 月 23 日に御嶽山火山マイスター運営委員会が第一号として 8 名を認定した。「よく学び、畏れ、再発見する～御嶽山の歴史・文化・自然を学び、火山と共に生きる決意と覚悟を～」をポリシーとして活動している。

代表は、王滝村公民館長、村史編纂室長である澤田 義幸氏がつとめている。

- 【活動内容】
- ①マイスターが相互に連携し、学び合いや研修を通じて活動の場を広げる
 - ②マイスター制度の広報と御嶽山地域の魅力を発信
 - ③防災教育の普及啓発や、地域振興につながる活動

- ・御嶽山地域の小学生から高校生を対象に、次世代の御嶽山火山マイスターとして活躍が期待される人材の育成を目的として、「御嶽山ジュニアマイスター」を御嶽山火山マイスターネットワークが認定している。

○ 御嶽山ビジターセンターの整備

木曾町及び王滝村では、平成 29 年 2 月の「長野県火山防災のあり方検討会報告書」を踏まえ、登山者や観光客等に対する火山防災啓発、リアルタイムでの防災情報発信、自然豊かな御嶽山エリアの魅力発信等の役割を担う「御嶽山ビジターセンター」を 2021 年に設置することを目指して検討を進めている。

本年度は、7 月に「御嶽山ビジターセンター建設専門委員会」を設置し、より具体的な検討を進めている。

○ 木曾町立三岳小学校の「御嶽山」学習

御嶽山の麓に位置する木曾町立三岳小学校の 5・6 年生は、御嶽山に焦点をあてた地域学習を行っている。御嶽山の自然や、御嶽山がもたらす恵みなどを学校で学ぶとともに、御嶽信仰の歴史や、御嶽山の成り立ちについて校外学習を重ねてきた。今月 19 日には御嶽山登山を行い、防災の取組についても学び、ジュニアマイスター第一号の認定を受けた。

子どもたちは「木曾をアピールしたい」という願いを持ち、これから自分たちの目を見た御嶽山の案内看板を製作することとしている。



教室での学習



御嶽山登山

○ 二の池ヒュッテ（旧二の池新館）の営業再開

噴火災害以降営業を休止していた山小屋「二の池新館」が、「二の池ヒュッテ」としてリニューアルオープンした。

前オーナーが譲渡先を探していたが、金峰山小屋（奥秩父）で長年働いてきた高岡ゆりさんが応募し、譲り受けた。高岡さんは木曾町に移住し、本年 5 月後半から資材搬入を始め、スタッフとともに修繕などの準備を行い本年 8 月 11 日に営業を再開した。



二の池ヒュッテ



登山客を案内する高岡さん

○ 観光復興に向けた取組

噴火災害により深刻な影響を受けた木曽地域の観光復興を図るため、県・市町村・関係団体が平成26年11月に「木曽観光復興対策協議会」を設置した。

協議会では、誘客促進のため、宿泊者への優待キャンペーンや貸切バスへの支援、観光地を巡る観光タクシープランの造成、インバウンド対策などを実施してきている。

今後は、秋の高山と木曽路を結ぶタクシープランのモニター運行や、リフト券とセットにした冬のタクシープランの販売を予定している。

木曽町役場 総務課 危機管理室

(室長) 古野 昌敏

電 話 : 0264-22-4280 (直通)

F A X : 0264-24-3600

E-mail : joho@town-kiso.net

木曽地域振興局

(副局長) 宇都宮 純 (担当) 大草 貴宏

電 話 : 0264-25-2211 (直通)

F A X : 0264-23-2583

E-mail kisochi-somu@pref.nagano.lg.jp